

岐阜おおがきビエンナーレ2021 国際シンポジウム

# L I F ——— E !? — 部分的に生きているもの、 エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命

開催形式：オンライン

会期：2021年12月17日(金)－12月19日(日)

## クレジット

主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]，大垣市

ディレクター：ホアン・マヌエル・カストロ准教授

プロデューサー：伊村 靖子准教授

委員：赤羽 亨教授 瀬川 晃准教授 前田 真二郎教授 三輪 真弘教授

市原 朱美(事務局) 仁尾 千佳子(事務局)

配信システム：牛山 泰良(システム管理)

シンポジウム・アシスタント：服部 真吏

デザイン：中村 直永(中村直永デザイン事務所)

運営アシスタント：ハンター・ネルソン(事務局)

カルティカ・メノン(M2) 樋口 聡一郎(M1) 宮崎 那奈子(M1) 有賀 まなみ(M1)

※上記、役職等は開催当時のもの



## 概要

人類は何千年もの間、生物の性質に魅了され一方で困惑してきた。これまでに100以上もの生命の定義が提唱されてきたが、生命とは何か、どのように誕生したのか、それは地球以外にも存在するのか、未だ多くのことが明らかにされていない。今日、生命のような特性を備えた化学システム、ウイルス、極限環境微生物が生命についての理解を広げ、私たちの惑星とその外にある、未知の形態の生命の探索を促している。

同時に、私たちが公の場でこうした探求に直面するのは、アーティストによるプロトバイオロジー、極限状態における生命、ウェットな人工生命、地球外生命のナラティブと具体的な表現に深く関わる場面においてである。現代のメディア・アート、その中でもバイオアート作品は、その物質性において挑発的であり、非常に厄介な存在論的な意味合いをもたらす。こうした作品の制作活動、バイオメディアとウェットウェアの使用は、その錯綜、影響、主体性が増すにつれて、ますます複雑になってきている。確かに、生きていることを定義する概念が変われば、生命の限界と可能性の境界線が曖昧になるのは、もはや必然と言えよう。

9回目となる今回の「岐阜おおがきビエンナーレ2021 国際シンポジウム「L I F —— E !?」」は、2021年、12月17日（金）から19日（日）の3日間、オンライン形式で開催された。本ビエンナーレでは「L I F —— E !? -部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」というテーマのもとに、多様

な専門分野のゲストを迎え、アート、哲学、化学、生物学、宇宙生物学からのアプローチを集結し、「生命らしさ」に対するモダニズム／ポストモダニズム思考を超えることを目指した国際シンポジウムとなった。

本国際シンポジウムは、3つのセッションで構成した。セッション1「部分的に生きているもの」では、哲学、化学、微生物学の分野から「生命らしさ」について議論した。各専門分野の立場から、（通常は受動的に従順なものと考えられている）物質の能動的なふるまいや、生命らしさの度合い、化学から生命への移行について思索した。様々な視点を通じて、私たちが抱いている生命観の尺度が変化した。セッション2「エクストリーム・バイオロジー」では、エコロジー、地球温暖化、共存、バイオテクノロジー、「エクストリーム・バイオロジー（極限環境における生物、遺伝子組換え生物、ポストヒューマン、トランスヒューマニズム）」の出現といった問題に関連したアートの役割について取り上げた。そして、セッション3「エイリアン生命」では、アーティストと科学者が集まり、宇宙生物学、宇宙探査、エイリアン生命（代替りの生化学に基づく生命）に関する重要な問題について議論した。本国際シンポジウムのこれらの成果は、生命らしさをめぐる思考にふさわしい、新たな用語と枠組みを探る試みとなり、現代のメディア・アートにおける物質性、エージェンシー、パフォーマンスティビティ、アニメーションなどを通じて、生きていることが帯びている、新たな意味に焦点を当てることとなった。

岐阜おおがきビエンナーレ2021ディレクター  
ホアン・マヌエル・カストロ

LIVE / EXTREME BIOLOGIES / ALIEN LIFE

登壇者

Jens Hauser カールスエール工科大学教授・キュレーター

山岸 明彦 東京薬科大学名誉教授

四方 幸子 キュレーター

久保田 晃弘 多摩美術大学教授

中屋敷 均 神戸大学教授

Andy Gracie アーティスト

豊田 太郎 東京大学准教授

長谷川 愛 アーティスト

小林 昌廣 IAMAS

Juan Manuel Castro IAMAS

国際

THE PARTIALLY ALIVE / E



## タイムテーブル

12月17日(金)

17:35-17:50 受付開始

17:50-17:55 「はじめに」 Juan Manuel Castro (IAMAS)

17:55-18:00 開会挨拶 鈴木宣也 (IAMAS)

<特別講演>

18:00-18:40 「マイクロパフォーマティビティについて」 Jens Hauser (カールスエール工科大学)

18:40-19:00 Q&A

12月18日(土)

<セッション 1 「部分的に生きているもの」>

15:00-15:40 「ウイルスから生命を考える」 中屋敷均 (神戸大学)

15:45-16:25 「いのちの対話」 小林昌廣 (IAMAS)

16:30-17:10 「微小なウェットウェアを目指して」 豊田太郎 (東京大学)

<セッション 2 「エクストリーム・バイオロジー」>

17:20-18:00 「生命と非生命を超えるエコゾフィーと平和」 四方幸子 (キュレーター)

18:05-18:45 「極限環境ラブホテルからトランスヒューマニズムまで」 長谷川愛 (アーティスト)

12月19日(日)

<セッション 3 「エイリアン生命」>

15:50-16:30 「パンスペルミア仮説と地球外生命の可能性」 山岸明彦 (東京薬科大学)

16:30-17:10 「地球外マテリアル・エージェンシー」 Juan Manuel Castro (IAMAS)

17:10-17:50 「人知・人力を超えた宇宙で生存することの実現不可能性」 Andy Gracie (アーティスト)

17:50-18:30 「エイリアン知能とマテリアル・(ノン) フィクション」 久保田晃弘 (多摩美術大学)

19:00-19:50 「L I F —— E!?! ディスカッション」 セッション1~3の登壇者

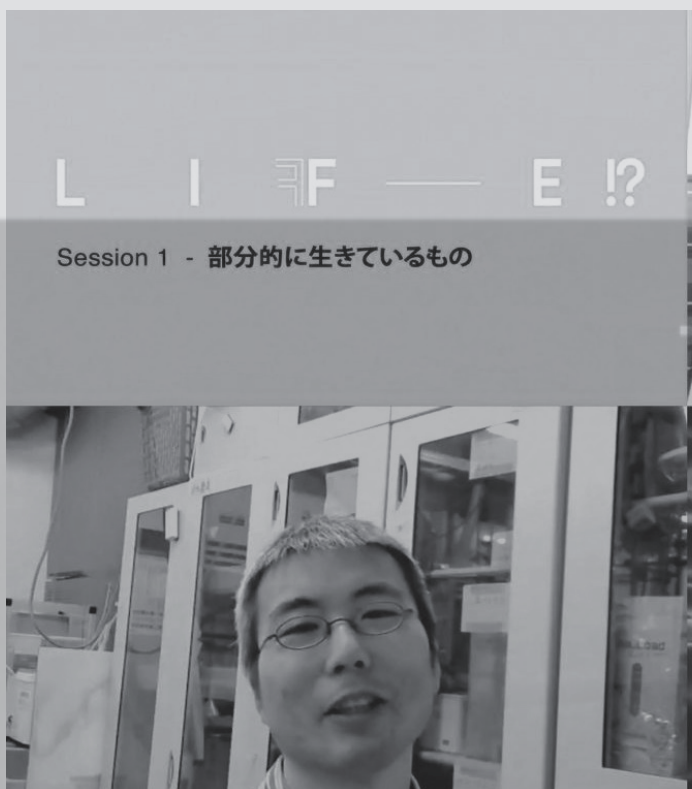
19:50 END

EXTREME BIOLOGIES / ALIEN LIFE



特別講演

特別講演：Jens Hauser



Session 1「部分的に生きているもの」：中屋敷 均(上)、豊田 太郎(左)、小林 昌廣(右)





Session 2 - エクストリーム・バイオロジー

Session 2「エクストリーム・バイオロジー」: 四方 幸子 (左)、長谷川 愛 (右)



Session 3 - エイリアン生命



Session 3「エイリアン生命」: (左上から、時計回りに) 久保田 晃弘、Andy Gracie、Juan Manuel Castro、山岸明彦